

「流水管理センター」って何をするとところ？

1.大雨とダムの関係

そのむかし、川は大雨が降るたびに水があふれ、洪水となって周辺の人々の生活をおびやかしました。逆に雨が降らない日が続いても、川は干上がってしまい、同じように人々の生活に悪影響を与えました。こうした自然の猛威をやわらげ、水をコントロールするために考え出されたのが「ダム」です。

2.木曾川水系の特徴

ダムには治水・利水・発電・かんがい等、様々な目的があり、木曾川水系だけでも数多くのダムが存在しています。このため水の流が非常に複雑になっています。もしも個々のダムが独自の判断で水をせき止めたり放流したりすると、水をコントロールするどころか、自然の猛威をより激しいものにしてしまう可能性があるのです。

3.流水管理センターの役割

そこで、流域内のすべてのダムを一元的に管理する必要があるわけです。その役割をするのがここ、「流水管理センター」です。センターではつねに、河川の水位・流量、流域の雨量、ダムの流入・放流量の他、水道用水・工業用水・農業用水の取水量など様々なデータを集め、監視しています。たとえば出水時であれば、河川の水位・流量が今後どのように変化するかを予測し、災害の危険がある場合は、水防警報・洪水予報などの情報を水防関係機関や地域の人々に提供しています。また渇水時には、ダムに貯めている水を有効利用できるように、貯水池の運用管理を総合的に行っています。

平時時

水文データの収集
データの蓄積・提供

出水時

ダム操作の監視
水防警報・洪水予報
情報の提供
(関係機関)

渇水時

水文データの収集
ダム貯水量予測
流況予測

流域図

木曾三川(木曾・長良・揖斐)の流域は、長野・岐阜・愛知・三重・滋賀の5県にまたがる日本有数の大川。この広大な流域の管理を担うのが、「流水管理センター」なのです。

